

## 市瓦斯局などの遺構公開

# 伝えたい横浜の近代化

横浜市が近代都市として発展した過程で建築された市瓦斯局などの遺構の一般公開が13日から、横浜市中区日本大通の横浜都市発展記念館と横浜ユーラシア文化館の中庭で始まった。都市発展記念館の上山和雄館長は「きちんと調査、保存し、何十年にわたって伝えていきたい」と話した。

展示されているのは4点。市瓦斯局（1892年設置）のガスタンクのれんが積み基礎や、勝海舟の設計で1860年に完成した神奈川台場の石垣の石などだ。今回整備された四季折

々の花が咲く小さな庭園に、説明板とともに置かれている。

一般公開は、市内の菓子製造販売会社、三陽物産か

らの寄付で実現した。同日、上山館長から感謝状を受け取った同社の山本博士社長は「未来の横浜の子どもに見せてあげたかった」と支援に込めた思いを語った。遺構は、入館料を払わなくても見学できる。

（柏尾 安希子）



新たに設置された神奈川台場の遺構について説明する学芸員（右端）

横浜都市発展記念館と横浜ユーラシア文化館の中庭